

その二 水の神系 (同象女(ミズハメ)神と祭る) 34神

の二つで、水と司る女神である。

1. 水神社 弥生所切畑地区細田一ノ口、同村天満社のK。

2. 水神社 弥生所切畑地区平井真弓鶴、同村一ノ宮神社に合祀。

3. 水神社 弥生所切畑地区江良字左馬ヶ敷、同村放園の八坂神社に合祀。

4. 星宮神社 佐伯市鶴堂地区坂山(明治十一年合祀)

5. 塩井社 宇目所重岡地区塩見園字打越(明治九年合祀)

6. 水神社 右のK。

7. 水神社 宇目所重岡地区大平字岡田ノ上、鷗野尾社のK。

8. 水神社 宇目所重岡地区河内字松ノ原、天満社のK。

9. 龍王社 宇目所小野市地区区夷。

10. 地神社 宇目所重岡地区宇田の鼻。

北2. 水神社(ニ社) 津久見市徳浦字権現山の徳浦神社のK。

北3. 水神社 津久見市津久見浦字宮ノ前のもとは泉社赤八幡のK。

その三 水分(ムまくり)系 (天國水分神) 水源の神

北1. 水分神社 大分市坂ノ市久上字竜王字↓明治十八年

宇童王の天満社へ合祀、昭和二十六年久

土神社へ合祀。

北2. 水分社 臼杵市望月字臺↓明治十八年宇太郎畑の五

柱神社へ合祀。

北3. 水分社 津久見市徳浦字権現山の徳浦神社に明治十

八年合祀。

その四 按延(ハライト)神系 (濃織津姫神) 早川の濃に

あつて、この世の罪穢を海原に流し送り神である。

南1. 此花咲家神社 佐伯市下野田地区石打(明治十年合祀)

北1. 祓戸四神の宮 (○早秋津姫命。濃織津姫命)

佐賀岡所早吸日女神社のK。

その五 養流功業者を祀る神社

北1. 后殿合祀之壇(后は天聖高王、殿は五穀の神)

臼杵市南津留字松ヶ鼻

その六 その他

① 海部で一番数の多い天満社はもともと雷神で、水(雨)

の神の社の少ない地方では、雨乞、祈願、天満

社で行つていたようである。

② 阿蘇神社(健甕龍命)系

早大の松田青男教授の、丹生の研究によると、

阿蘇山の神であり祀後の国の地主神である健甕(

甕)龍は高岩龍で、貴船系の主神高岩龍神の变化

したものである。

丹生(一)の宮(大分市川添火振の阿蘇神社)

丹生二の宮(大分市坂の市原(もと丹生村)丹生神社)

丹生三の宮(大分市坂の市原山の丹生社)

(おわり)

探訪記

岸河内から大越へ

――堅田の古戦場をめぐるの記――

羽柴 弘

三月五日 市民あるこゝ会と案内して、西野から古戦場千人

原へ。

四月一日 史談会有志八人で岸河内から大越へ。

四月 日 高岡の陸上自衛隊将校葉浦氏と案内して、堅田古戦場まで

四月廿三日 藤沢の富良野神社参拝(史談会員七、八名同行)

右の通り最近四回引つづき、堅田谷を歩いた。その中で最も収穫多く感じたのは、探訪を記して見よう。

四月一日は土曜日、しかし今日日朝から自転車で
— ということで、定刻の八時半位到大橋に集
合出發、バカバカ上流から山本氏、堤内から五十
川氏その外定連、田淵で今日の案内役岩田氏が
一措はなり、徳海へ入である

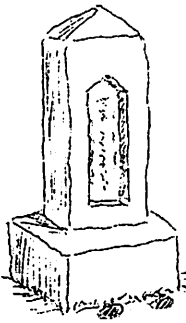
先ず、岸内内の地蔵庵を訪う。境内には古塔が
多い。かなり大きな一石彫の五輪塔を見つける。
かなり古いと見た。文字は
勿論ない。

ここは大願寺の跡で
寺屋敷は十々上の台地
であるという。上つて見
ると、かなり広く茶畑に覆
つており、表が徳を出して来た。



庵内にこぼれおちたる白つばき

千北から金剛寺の跡を左へ折る。「ここから
—」と教えられたとこは、道をはきんで上り、疎
林、下段へ廻れ、すぐ近くは人家あり、寺屋敷
らしい広い空地は全くない。左に竹林のほとり
勢しい五輪塔の打ちこずんだものが、おちこち
散見、そしていよいよ元祿墓に先んずる、火のよ
うな格好の墓が多数 並んでいる。



(前に花崗が
二平立てられ
格の墓が供
えられてい
か、魚くんと
と有いた)

「本名 釈道尊」とあり「延宝八年」とある
ので、元祿に先んずる約二十年。この型式は僅々
ておこころ。

この金剛寺は天正十一年の堅田合戦に、討死し
た敵味方の屍體を集めたくたい寺の名が出て来
る(大友興隆記)が、その衰退、廢絶はいつては
左に分らないことがわかない。

金剛寺の跡とゆやせしすみ水堂

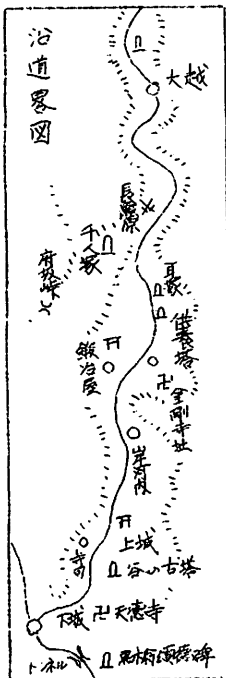
今日は一先ず大越まで上ろう、ということに
なり、自衛軍のベグルを踏む。大越へは道は勿論ま
ち補装されてなく、ゆゆしがりてかなり遠い。お
まけに坊主も雪がちらちら降って来た。
左手川向うに投を喰かせた浮松が見える。大越
部落の中心地である。道は左のお店の方には
尤人家のうしろの山陰に祀つてある。黒木家の
いせ祖と呼んでいる塔に祀つてある。ちんぼくか、
五輪塔の水輪二つ、火輪二つ、それに空乳輪が鉄
序もなく並べて、苔むつる草をかぶつて祀られて
ある。

黒木幸太郎氏はここ上堅田村(當時)大越の産、
上堅田村会議員から徴佐伯市長、県会にも議員と
なつた郷土政治家の大人物。

墓は家から更に一キロ近く、見上げるほど火
多き、高島郡役所へなる墓碑銘が書かれてあ
る。おちこちには横か何卒もあり、どれどクリム色
の苔を一段いつけておちこち印家ぶかく心口
残つた。

下り、道上におちた旧墓地におちつて見ると。
佐脇会員はちこちさかいていたが、明治十年の
世向の後には、官軍の遺體と誤認されて扱された清
原守命の墓を見つけた。その屍體を黒木氏が
引きとつて帰つたという、昔果を御土の歴史物語
があるおちこちである。

ここで今一つおちた左も、この古墓地の
墓石である。ほとんどが月照石、拾つて来た谷川
の石敷敷を用いて、字墓である。(下四)



首せが型で乳瓶である。ゆ、字左いのが中央
に、そしてまわりには分り
かちこちと、不規則におち
れりあり、ちんぼくとも整然と
してない。どれど石の
茶が供えられておちこち
村の人達はそれをおちこち
ていねいに祀つてはいる
のである。



私口越えて大胆に、こ
の川原石による伏墓を、
江戸時代以前の埋葬の形
態と見たい。この村独特の
この伏墓を、上に書いた岸川
内、延宝の頃より更にさかの
り大室町時代にも、仮りに時代位置づけをし
ておこころ。

敢えておちこちして黒木家におちこちになり、おち
といたおちこちして屋敷の宗当とつた。

帰りには岸川の川向う、鍛冶屋という村を
る。田圃のまん中、年々毎年祀つておちこち
い、黒木家塔、山すすの香炉、速申橋、人家の背
戸にある古い墓地などいろいろある。そして改修
工事中の水路を越えて、神社の石段をのぼる。頭
上の山桜が、折板の夕陽に映えて美しい。
三子神社と呼ぶこの神社、華殿がすばらしい。
格天井は言うまでもなく、まわりの板壁などは
びいっしと、華殿も美しく、おちこちの板壁から
絵まで、その出来がいい。近頃こんなきれいな
おちこちが少なくなつておちこちである。
それから彼は一路寺を走らせ九か
の目川、そして中山のトンネル近く
にある「黒木幸太郎翁遺徳碑」に立ち寄
つて、今日の史跡めぐりを終りとした
今日四月馬鹿(エニールフル)
の日に当つておちこち、以上は大おちこち
しなかつた事案のついでである。(終)